

愛の星

2021・第2号(通算168号) 2022年3月31日

みんなでワクワク!



社会福祉法人 東京聖ビンセンシオ・ア・パウロ会

愛星保育園

〒108-0074 港区高輪1-27-40

TEL. 03-3441-5410

FAX. 03-3441-5436

E-mail aiseihoikuen@fancy.ocn.ne.jp

<http://www.aisei-hoikuen.com>



園の花(すみれ)



今年度も、コロナという見えない敵と戦いながらの年となりました。しかし、前年度に保育や行事の考え方、取り組み方等、今まで当たり前と思って取り組んできたことを考え直すきっかけを与えられ、2021年度はそのことをたたき台としてきました。

前年度からの楽しい保育、ワクワクする保育を継続し、「子ども達にとって、保護者にとって、職員にとってのワクワクとは何か」を考えてきました。

子ども達がやりたいことを自分で見つけ、選び、挑戦し、工夫する環境を作っていくことを意識すると共に、子ども達の興味はどこにあるのか、発達を促していくために必要なことは何なのかを見つけるためにも一人一人の姿を丁寧に観察しながら保育を進めました。

子ども達はワクワクを見つけることが上手で、日常の遊びや生活の中で見つけるのはもちろん、コロナ禍ではありましたが、限られた環境の中でもたくさんのワクワクを見つけていました。地域の中で栗、みかん、ザクロ、持ちきれないほどの松ぼっくり等都会とは思えない自然との触れ合いが多い1年となりました。初めての自然物に驚いたり、恐々と触れてみたり、実際に経験することでの多くの学びがありました。また、1年間に2回のオリンピック、パラリンピックでは、様々な国、競技に興味を持つだけでなく、素晴らしいパフォーマンスを見ることで、たゆまない努力に感動すると共に障害をもつ方々への「すごいな」という尊敬の気持ち、自分達も頑張れば様々なことができるかもしれないという希望、夢を見つける姿が見られました。しかし、まだ子どもが自分達で見つけるというよりも職員の思いで提供していることも多いので、保育者自身も環境の一部であることを意識しながら、子ども主体の保育が展開できるよう考えていきたいと思います。

保護者の皆様には、コロナの感染防止から懇談会等の直接的に伝える機会が中止や行ってもZOOMという形になったことで、時間の制限があり考えていたよりも伝えきれていないと感じます。また、クラスだより等で子ども達の姿を伝える時に「こんなにたのしいことがありました」「こんなことができるようになりました」等、結果を伝えることは今までもしていますが、その結果に行きつくまでの過程を伝えられていないことが反省点として挙げられます。その過程こそが、挑戦、葛藤、工夫、達成等、私達が大切にしている“遊びのなかでの学び”であり、今後の学習の基礎となる重要なことであることへの理解を深め、保護者の皆様にもともにワクワクを感じていただけるよう伝えていきたいと思います。

今年度も、心配や不安の多い1年となりましたが、園の保育・運営に関してご理解・ご協力を頂きありがとうございました。

今後も一人一人を大切に丁寧に保育し、職員一同力を合わせより良い「愛星保育園」の保育を作っていくよう努めてまいります。

園長 村岡恵美子

ゆり組（0歳児）

保護者の方と離れて過ごす園生活に、初めは不安そうな姿や食事がなかなか食べられない姿が見られた子ども達でした。しかし、今年度のねらいに入れていたように、子ども達の個々の姿をよく見ながら関わりと共に一人一人に合った生活リズムを大切にすることで、今では安心して過ごす姿が見られるようになってきました。保育園が安心できる場となったことで子ども達のしようとする気持ちが芽生え、園内や散歩先では花や木の実・野菜などに触れて感触を感じつつ香りを嗅いだり、聞こえた音を真似たりと色々な物事に触れて楽しみながら、興味・関心を広げてきました。興味のあるものが広がると、ハイハイや歩行に対する気持ちが強くなり、運動発達に繋がってきたようにも感じます。また、保育者との関わりを元に友だちとの関わりも増え、そこからの刺激もたくさん受けながら言葉の発達の広がりも見られました。

この1年、安心できる大人や友だちとの関わりからたくさんの刺激を受け、様々な物に興味が向くようになってきました。これからも、安心できる保育者が側で見守りながら、その時々にあった援助をすることで、子ども達の探求する気持ちや自分でしようとする気持ちを大きく育てていきたいと思います。



もも組（1歳児）

子ども達の興味・関心に合わせ、見て、触れて、感じることができるような経験を取り入れてきました。子ども達一人一人の感じ方、表現の仕方は違う姿があります。経験を積み重ねていくたび個性も強まり、心の発達に繋がったのではないかと感じます。心の成長発達と共に、自分自身の身の回りのことに興味を持ち、一生懸命に取り組む姿も見られるようになってきました。自分のやりたいと思うこと、できることにまだまだ差があり、葛藤もある一年だったと思います。これからもそういった「自分でやりたい!」という思いを大切に、そしてできた時の喜びを共有し、自立に向けての基盤を育てていけたらと思います。

少しずつ友だちへの興味が広がり、関わる姿が見られ始めました。友だちとの関わりの中、自分の思いを言葉にしていってうまく伝えられないもどかしさや、思いが通らない時、その葛藤を表現する姿がありました。保育者が仲立ちとなり友だちと関わるができるようにすると、やり取りをする楽しさやひとり遊びでは感じることはできなかった楽しさを、友だちと共有する喜びを少しずつ感じていくことができるようになってきました。また「五感を使って様々な経験をして欲しい!」と関わってきた1年。散歩先では沢山の自然に触れ、毎日の散歩が待ち遠しい程でした。緑色だった蜜柑がオレンジ色に変わり、栗はトゲトゲの洋服を着ていて触ると痛いこと、赤くて丸い不思議な実の中には沢山のキラキラした宝石のような物が入っていること、大木の下には虫の大事な家があること等、新しいことを沢山知りました。子ども達は感じる心を、声・仕草・表情等様々な形で表現し、その姿に驚かされ、子どもの発見を共有しながら感性豊かに関わることができました。都会の中で多くの自然に触れることができ、公園や学校で遊ぶことで地域とのつながりにも感謝しています。





つくし組（2歳児）



近年では、体を動かして遊ぶということが少なくなり、子どもたちの体力低下が問題とされていることから、今年度は、体を動かす遊びを十分に取り入れ、「またぐ、くぐる、跳ぶ」などの動きを特に意識して行っていました。

晴れの日には戸外に散歩へ出掛け、散歩先の広い空間でオオカミごっこやかくれんぼなどの集団遊び、石段の上り下り、ジャンプ、バランスをとりながら縁石渡りなどを日々行ってきました。公園では、ブランコや滑り台などの固定遊具も積極的に使い、体を動かすということに繋げていきました。また、体力づくりで園周辺にある階段や坂道の上り下り、室内遊びでも「またぐ、くぐる、跳ぶ」などの動きを意識し、巧技台やトンネル、マルチパーツなどを使用して体を動かす活動を行いました。普段の遊びの中でも自然と「またぐ、くぐる、跳ぶ」などの動きはありますが偏りが出てしまうため、意識的に行う事でバランスよく体力づくりをしていけるようにしました。

この1年間、「またぐ、くぐる、跳ぶ」などの動きを繰り返し行うことで体力や筋力もつき、初めはできなかった石段のよじ登りやロッククライミングも保育者の補助なく自分で登れるようになりました。そして、できたことで自信が付き、自分から進んで様々な遊びに挑戦しようとする姿がたくさん見られ、その挑戦する、頑張ってみるということが普段の生活にも繋がりを、食事面では、苦手だった野菜や食べ物を自分から食べる姿も見られました。また、着脱や排泄などの身の回りのことも保育者の援助がなくても自分でしようと頑張りました。

これからも何事にも挑戦する心と友だちを思いやる心をもって成長していった欲しいと思います。



またぐ



くぐる



跳ぶ



バランス



よじ登り



坂道



園周辺の階段の上り下り



かけっこ



巧技台



室内運動遊び





たんぽぽ組（3歳児）



今年のたんぽぽ組は個性豊かで、自分のやりたいことがしっかりとある子どもたち。その部分を大切にしたいと考え、モンテッソーリ活動を取り入れました。自分のやりたい活動を自由に選択して、約束を守りながらじっくりと取り組むという環境を用意すると、興味・関心に合った活動に子ども達も夢中になって取り組んでいました。この時間が子ども達の心を満たし、「友達も自分と同じようにやりたいことがある」「やりたいことをするためには約束も守らなければならない」という気持ちの芽生えにも繋がって、クラスとしてのまとまりが出てきました。

自分の思いが強く、すれ違ったりぶつかることも多かったですが、保育者が仲立ちとなりながら友達にも思いがある事を伝え、どうしたらみんなが楽しい気持ちで過ごせるかを伝えてきました。繰り返し経験することで、やり取りをしながらごっこ遊びや鬼ごっこなどを楽しめるようになっていきます。「友達大好き！」という気持ちが大きくなりました。生活面でも初めは排泄や着替えなど、身の回りのことに保育者の援助が必要だった子ども、一人一人向き合っていくことで、意欲的に取り組む姿が見られるようになりました。保育者が見本を見せたり、段階を踏んで取り入れることで、自分でもやってみようという気持ちを持ち、考えながら行っています。繰り返し行うことで身につき、『自分でできた』という経験が自信に繋がりました。



身の回りのことも
意欲的に！



モンテッソーリ活動



友達と一緒に
イメージを膨らませて



何事にも真っ直ぐな子が多く、楽しいこと・面白いことを見つけて友達と一緒にみんなで楽しむことが大好きな子ども達。これからも友達と一緒に過ごす中で葛藤や悩みを乗り越えながら、心強さや楽しさをパワーにして自信を持って様々な事に取り組んでいってほしいと思います。

